

自己意識特性が情報に対する興味の方向性に及ぼす効果

その他のタイトル	The effect of self-consciousness on sought information structure
著者	西迫 成一郎, 森上 幸夫, 桑原 尚史
雑誌名	情報研究 : 関西大学総合情報学部紀要
巻	6
ページ	31-44
発行年	1996-12-10
URL	http://hdl.handle.net/10112/00020350

自己意識特性が情報に対する興味の方向性に及ぼす効果

西迫成一郎 森上幸夫 桑原尚史

The effect of self-consciousness on sought information structure

Seiichiro NISHISAKO*

Yukio MORIKAMI*

Takashi KUWABARA**

Abstract

The purpose of this paper is to describe how self-consciousness has influence on intensity of interest for information. We used a questionnaire for measuring the intensity of interest for information. It consists of items of interest for information about the present self, information about the future self, information about others, information about daily life, information about society, and information about mystical phenomenon. Another questionnaire was used for measuring self-consciousness. It consists of items of private self-consciousness, public self-consciousness, and social anxiety. The investigation was carried out using 160 undergraduate students. The results of investigation show that there were significant differences on intensity of interest for information about the present self and information about others between high and low private self-consciousness. There were also significant differences on the intensity of interest for information about the present self and information about others and information about daily life between high and low public self-consciousness. There were no significant differences on the intensity of interest for information of all between high and low social anxiety.

* Faculty of Sociology, Kansai University

** Faculty of Informatics, Kansai University

周知のごとく、人によって求める情報は異なる。それは多分にその個人がおかれている状況に依存していることは否めないものの、そこに状況を越えた個人の情報に対する傾向性をみいだすことはできないだろうか。

人は目標志向的な存在である。したがって、人はつねに何らかの目標を有し、そして目標と現実との不一致を問題としてとらえ、それを何らかの形で解決しようとする。すると、人がいかなる情報を求めるのかは、いかなる問題を認識し、それをいかに解決しようとしているのかによって強く規定されるとみなすことができよう。

それでは、人はいかに問題を認識するのであろうか。Duval & Wicklund (1972) および Wicklund (1975) が提唱した客体的自覚理論 (objective self-awareness theory), そしてその精緻化を試みた Carver (1979) と Carver & Scheier (1981) の制御理論 (control theory) に従えば、人が問題を認識するには、まず、その個人の注意が、環境と自己のうち、自己に向かわなければならない。注意が自己に向かうと、その注意はその個人がおかれている当該の状況においてもっとも関連度あるいは重要度の高い側面に絞られる。すると、その注意の対象となった側面は、その個人が有する個人的信念 (personal belief), 理想の自己 (ideal self) あるいは社会的規範 (social norm) といった行動の適切さの基準 (standards of correctness) と照合され、その側面に対しての評価が行われる。この評価の結果、注意を向けた側面が、その基準に達していないという判断がなされたときに、適切さの基準に自己を合わせなければならないという問題の認識がその個人に起こるのである。

すると、まず、人がいかなる問題を認識するかは、自己のいかなる側面に注意を向けるのかによって強く規定されるといえる。Buss (1980) は、この自己に向かう注意の方向性を、自己の情緒・思考・態度といった他者には観察されない自己の私的な側面 (private self) に注意が向けられる場合と、自己の容姿・行動など、他者が観察可能な公的な側面 (public self) に注意が向けられる場合の2つに大別し、内省状況においては注意は自己の私的な側面に向くこと、また被観察状況や自己の外在化されたシンボルとの接触状況においては注意は自己の公的な側面に向くことを示し、注意の方向性が状況によって変化することを彼の一連の研究をまとめた自己意識理論において指摘している。しかし、情報に対する個人的な傾向性をみいだすことに主眼を置くならば、その一連の研究において注目すべきは Fenigstein, Scheier, & Buss (1975) の自己に向かう注意の方向性には安定した個人的傾向があるという指摘である。彼らは、それを自己意識特性 (self-consciousness) と総称し、自己意識特性は、私的な側面への注意の向きやすさを示す私的自己意識特性 (private self-consciousness), 自己の公的な側面への注意の向きやすさを示す公的自己意識特性 (public self-consciousness), そして他者に対しての動揺のしやすさを示す社会的不安 (social anxiety) より構成されるとしている。

もし、自己に向かう注意の方向性にこのような個人的特性があるとすれば、それは個々人の問題の認識のあり方、さらにはそれに伴って情報を求める行為に一貫して影響を及ぼすものと思われる。そこで、この自己意識特性が、問題認識過程および情報を求める行為に対していか

なる影響を及ぼすのかを考えてみると、まず、私的自己意識が高い個人および公的自己意識が高い個人は、自己に注意が向きやすく、また、社会的不安が高い個人も他者の存在に鋭敏であるが故にやはり自己に注意が向きやすく、問題を認識する確率が高いと予測される。問題を解決するためには、何らかの情報が必要とされる。したがって、私的自己意識が高い個人、公的自己意識が高い個人、および社会的不安が高い個人は、より多くの情報を求めると予測される。

また、私的自己意識が高い個人は自己の私的な側面に注意が向きやすく、公的自己意識が高い個人は自己の公的な側面に注意が向きやすいこと、私的自己意識の高い個人は私的な自己に関する情報によって自己スキーマが活性化しやすく、それに対して公的自己意識の高い個人は公的な自己に関する情報によって自己スキーマが活性化しやすいこと(工藤, 1990)、私的自己意識の高い個人は私的側面に関して精緻化した自己スキーマを形成し、公的自己意識の高い個人は公的側面に関して精緻化した自己スキーマを有していること(Agatstein & Buchanan, 1984)から、自ずと私的自己意識の高い個人と公的自己意識の高い個人とでは、認識する問題は異なってくることは予測される。認識する問題の性質が異なれば、当然、その解決に必要な情報も異なってくる。したがって、私的自己意識が高い個人と公的自己意識が高い個人とでは、求める情報が異なると予測される。

このように、自己意識特性は、人が求める情報を方向づける特性であると予測され、個人の情報に対する傾向性をみいだすひとつの契機となる可能性を秘めている。そこで本研究は、Fenigstein, Scheier, & Buss (1975) の自己意識尺度の邦訳版である、岩淵・田淵・中里・田中(1981)の日本語版自己意識尺度を用いて自己意識特性を測定するとともに、情報に対する興味を同時に測定し、私的自己意識特性、公的自己意識特性および社会的不安が及ぼす効果を検討し、上記の、1)私的自己意識が高い個人はより多くの情報を求める、2)公的自己意識が高い個人はより多くの情報を求める、3)社会的不安が高い個人はより多くの情報を求める、そして、4)私的自己意識が高い個人と公的自己意識が高い個人とでは求める情報が異なるという仮説を検証することを目的とする。

方 法

材料：自己意識特性を測定する尺度と、情報に対する興味の強さを測定する項目を用意した。自己意識特性を測定する尺度は、岩淵・田淵・中里・田中(1981)が、Fenigstein, Scheier, & Buss (1975)の自己意識尺度をもとに作成した日本語版自己意識尺度を用いた。この尺度は、私的自己意識を測定する11項目、公的自己意識を測定する5項目、そして社会的不安を測定する6項目の計22項目より構成される。情報に対する興味の強さを測定する項目は、西迫・森上・桑原(1996)が情報興味空間を分析する際に用いた項目を使用した。彼らは、人が求める情報の集合を情報興味空間と呼び、大学生を対象に、いかなる情報を求めているのかを収集し、

それらの構造を検討するために、因子分析を行っている。その結果、現在自己関連情報因子、将来自己関連情報因子、他者関連情報因子、生活関連情報因子、社会関連情報因子、神秘的現象関連情報因子といった6つの因子を抽出している。本研究においては、それぞれの因子に高く負荷する計65項目を興味測定項目として用いた。この65項目は、現在自己関連情報因子に負荷する10項目、将来自己関連情報因子に負荷する9項目、生活関連情報因子に負荷する23項目、他者関連情報因子に負荷する8項目、社会関連情報因子に負荷する9項目、神秘的現象関連情報因子に負荷する6項目から構成される。

手続：質問項目を被験者に呈示し、情報への興味の強さを測定する項目に関しては、それぞれの項目に記述してある情報をどの程度知りたいと思うかを、“まったく知りたくない(0)”から“ひじょうに知りたい(6)”までの7段階で評定することを求めた。また、自己意識尺度に関しては、それぞれの項目に記述してある内容に自分がどの程度あてはまるかを、“まったくそう思わない(0)”から“ひじょうにそう思う(4)”までの5段階で評定することを求めた。

被験者：男子80名、女子80名の計160名の大学生を被験者として用いた。

結果および考察

まず、自己意識特性と情報に対する興味の強さとの関係を全体的にみるために、私的自己意識特性尺度、公的自己意識特性尺度、社会的不安尺度のそれぞれの合計点と情報に対する興味の強さを測定する全項目の合計点との間で相関分析を行った。その結果、私的自己意識特性と興味の強さとの間 ($r=.252, n=160, p<.01$)、および公的自己意識特性と興味の強さとの間 ($r=.248, n=160, p<.01$) にそれぞれ正の相関が認められた。このことは、私的自己意識特性あるいは公的自己意識特性が高いと、ともに情報に対する興味が高まることを示している。しかし、社会的不安と情報に対する興味との間には相関が認められず ($r=.026, n=160$)、社会的不安と情報に対する興味との間にはここでは関係をみいだすことはできなかった。しかし、これらの結果は興味測定項目を全体的にとらえた結果にすぎず、ここで扱われた情報全般に適用しうるものではない。なぜならば、私的自己意識特性および公的自己意識特性の結果については、特定の情報に対する強い興味が全体的な結果となって顕れた可能性、そして社会的不安の結果に関しては、全体的にみることにより特定の情報に対する興味との関係が相殺された可能性を否定できないからである。したがって、自己意識特性と情報に対する興味との関係を検討するためには、情報を質的に分類し分析を行っていく必要がある。

そこで、次には、本研究で用いた興味測定項目の情報を、西迫・森上・桑原(1996)の因子分析の結果に従い、現在自己関連情報、将来自己関連情報、他者関連情報、生活関連情報、社会関連情報、神秘的現象関連情報という6種類の情報に分け、私的自己意識特性尺度、公的自己意識特性尺度、および社会的不安尺度のそれぞれの合計点とそれぞれの情報に対する興味の

強さの間で相関分析を行った。その結果、私的自己意識特性に関しては、現在自己関連情報 ($r=.325, n=160, p<.001$)、他者関連情報 ($r=.243, n=160, p<.01$)、生活関連情報 ($r=.176, n=160, p<.05$)、そして神秘的事象関連情報 ($r=.162, n=160, p<.05$) に対する興味の強さとの間にそれぞれ正の相関関係が認められた。しかし、将来自己関連情報 ($r=.024, n=160$) および社会関連情報 ($r=.108, n=160$) に対する興味の強さとの間にはともに相関関係は認められなかった。次に、公的自己意識特性に関しては、現在自己関連情報 ($r=.336, n=160, p<.001$)、将来自己関連情報 ($r=.243, n=160, p<.01$)、他者関連情報 ($r=.233, n=160, p<.01$)、そして生活関連情報 ($r=.242, n=160, p<.01$) に対する興味の強さとの間にそれぞれ正の相関関係が認められた。しかし、社会関連情報 ($r=-.072, n=160$) および神秘的事象関連情報 ($r=.007, n=160$) に対する興味との間にはともに相関関係が認められなかった。最後に、社会的不安に関しては、現在自己関連情報 ($r=-.005, n=160$)、将来自己関連情報 ($r=-.108, n=160$)、他者関連情報 ($r=.054, n=160$)、生活関連情報 ($r=-.001, n=160$)、社会関連情報 ($r=-.045, n=160$)、および神秘的事象関連情報 ($r=-.014, n=160$)、いずれの情報に対する興味との間にも有意な相関関係は認められなかった。

これらの結果は、私的自己意識特性が高いと、現在の自己に関する情報、他者に関する情報、生活に関する情報、そして神秘的な事象に関連する情報に対する興味が強くなること、そして、公的自己意識特性が高いと、現在の自己に関する情報、将来の自己に関する情報、他者に関する情報、そして生活に関する情報に対する興味が強くなることを示している。このことより、私的自己意識特性および公的自己意識特性は、情報全般ではなく特定の情報に対する興味の強さと関係があるといえよう。また、社会的不安に関しては、いずれの情報に対する興味とも関係をみいだすことができなかった。ただし、この結果は相関的な分析によるものであり、効果性を検討したものではない。そこで、次には、私的自己意識特性尺度、公的自己意識特性尺度、そして社会的不安尺度のそれぞれの平均値を基準に、被験者を高群と低群の2群に分け、両群を比較することにより、私的自己意識特性、公的自己意識特性、および社会的不安が情報に対する興味にいかなる効果を及ぼすのかを検討する。

まず、私的自己意識特性、公的自己意識特性、および社会的不安が、情報に対する興味に及ぼす全体的な効果について検討するために次のような分析を行った。第1に、私的自己意識特性が情報に対する興味を測定する項目に及ぼす全体的な効果を検討するために、被験者を私的自己意識特性の合計点の平均値を基準に、高私的自己意識特性群と低私的自己意識特性群に分け、両群の興味測定項目の1項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は Table 1に示す

Table 1 高私的自己意識特性条件と低私的自己意識特性条件の平均評定値

条件	人数	現在自己 関連情報	将来自己 関連情報	他者 関連情報	生活 関連情報	社会 関連情報	神秘的事象 関連情報	全項目
高私的自己意識特性条件	75	4.61	4.61	3.30	4.48	4.06	2.85	4.10
低私的自己意識特性条件	85	4.08	4.53	2.88	4.33	3.97	2.53	3.86

とおりである。両群間で t 検定を行ったところ、やはり有意な差が認められた ($t=2.30$, $df=158$, $p<.05$)。第 2 に、公的自己意識特性が情報に対する興味を測定する項目に及ぼす全体的な効果を検討するために、被験者を公的自己意識特性の合計点の平均値を基準に、高公的自己意識特性群と低公的自己意識特性群に分け、両群の興味測定項目の 1 項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は、Table 2 に示すとおりである。両群間で t 検定を行ったところ、これも有意な差が認められた ($t=2.39$, $df=158$, $p<.05$)。第 3 に、社会的不安が情報に対する興味を測定する項目に及ぼす全体的な効果を検討するために、被験者を社会的不安の合計点の平均値を基準に、高社会的不安群と低社会的不安群に分け、両群の興味測定項目の 1 項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は、Table 3 に示すとおりである。両群間で t 検定を行っ

Table 2 高公的自己意識特性条件と低公的自己意識特性条件の平均評定値

条 件	人数	現在自己	将来自己	他 者	生 活	社 会	神秘的事象	全項目
		関連情報	関連情報	関連情報	関連情報	関連情報	関連情報	
高公的自己意識特性条件	95	4.54	4.66	3.24	4.50	3.99	2.72	4.08
低公的自己意識特性条件	65	4.02	4.42	2.83	4.26	4.04	2.62	3.82

たところ、やはり有意な差は認められなかった ($t=0.73$, $df=158$)。これらの結果は、私的自己意識が高い個人は私的自己意識が低い個人と比較して情報に対する興味が強いこと、公的自己意識が高い個人は公的自己意識が低い個人と比較して情報に対する興味が強いこと、そして、社会的不安の高い個人と社会的不安の低い個人とでは情報に対する興味の強さが変わらないことを示すものである。

しかし、これらの結果は、情報に対する興味をあくまでも全体的にとらえた結果である。そこで、次には、私的自己意識特性尺度、公的自己意識特性尺度、そして社会的不安尺度のそれぞれの平均値を基準に、被験者を高群と低群の 2 群に分け、私的自己意識特性、公的自己意識特性、および社会的不安が、現在自己関連情報、将来自己関連情報、他者関連情報、生活関連情報、社会関連情報、そして神秘的事象関連情報というそれぞれの情報に対する興味に及ぼす効果を検討してみる。

まず、私的自己意識特性がそれぞれの情報に対する興味の強さに及ぼす効果をみるために、被験者を私的自己意識特性の合計点の平均値を基準に、高私的自己意識特性群と低私的自己意識特性群に分け、両群の現在自己関連情報、将来自己関連情報、他者関連情報、生活関連情報、社会関連情報、および神秘的事象関連情報を構成する項目の 1 項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は Table 1 に示すとおりである。両群間において t 検定を行ったところ、現在自己関連情報 ($t=3.32$, $df=158$, $p<.01$) および他者関連情報 ($t=2.49$, $df=158$, $p<.05$) に対する興味に有意な差が認められた。しかし、将来自己関連情報 ($t=0.55$, $df=158$)、生活関連情報 ($t=1.34$, $df=158$)、社会関連情報 ($t=0.45$, $df=158$)、および神秘的事象関連情報 ($t=1.51$, $df=158$)

に対する興味には有意な差は認められなかった。

次に、公的自己意識特性がそれぞれの情報に対する興味の強さに及ぼす効果をみるために、被験者を公的自己意識特性の合計点の平均値を基準に、高公的自己意識特性群と低公的自己意識特性群に分け、両群の現在自己関連情報、将来自己関連情報、他者関連情報、生活関連情報、社会関連情報、および神秘的事象関連情報を構成する項目の1項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は Table 2 に示すとおりである。両群間において t 検定を行ったところ、現在自己関連情報 ($t=3.02$, $df=158$, $p<.01$), 他者関連情報 ($t=2.40$, $df=158$, $p<.05$), および生活関連情報 ($t=2.05$, $df=158$, $p<.05$) に対する興味に有意な差が認められた。しかし、将来自己関連情報 ($t=1.56$, $df=158$), 社会関連情報 ($t=0.20$, $df=158$), および神秘的事象関連情報 ($t=0.44$, $df=158$) に対する興味には有意な差は認められなかった。

最後に、社会的不安がそれぞれの情報に対する興味の強さに及ぼす効果をみるために、被験者を社会的不安の合計点の平均値を基準に、高社会的不安群と低社会的不安群に分け、両群の現在自己関連情報、将来自己関連情報、他者関連情報、生活関連情報、社会関連情報、および

Table 3 高社会的不安条件と低社会的不安条件の平均評定値

条 件	人数	現在自己 関連情報	将来自己 関連情報	他 者 関連情報	生 活 関連情報	社 会 関連情報	神秘的事象 関連情報	全項目
高社会的不安条件	90	4.37	4.53	3.18	4.44	4.01	2.75	4.01
低社会的不安条件	70	4.27	4.62	2.94	4.35	4.02	2.59	3.93

神秘的事象関連情報を構成する項目の1項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は、Table 3 に示すとおりである。両群間において t 検定を行ったところ、現在自己関連情報 ($t=0.59$, $df=158$), 将来自己関連情報 ($t=0.56$, $df=158$), 他者関連情報 ($t=1.41$, $df=158$), 生活関連情報 ($t=0.80$, $df=158$), 社会関連情報 ($t=0.06$, $df=158$), 神秘的事象関連情報 ($t=0.74$, $df=158$), いずれの情報に対する興味にも有意な差は認められなかった。

これらの結果は、私的自己意識が高い個人は、私的自己意識が低い個人と比較して、現在の自己に関する情報および他者に関する情報に対する興味が強いこと、公的自己意識が高い個人は、公的自己意識の低い個人と比較して、現在の自己に関する情報、他者に関する情報、および生活に関する情報に対する興味が強いこと、そして、社会的不安の高い個人と社会的不安の低い個人とではいずれの情報に対する興味の強さが変わらないことを示すものである。このことより、私的自己意識特性および公的自己意識特性は、情報全般ではなく特定の情報に対する興味の強さに影響を及ぼすといえる。また、社会的不安に関しては、いずれの情報に対する興味にもその効果をみいだすことができなかつた。

ただし、これらの結果は、自己意識特性が個々の情報に対する興味に及ぼす効果を検討したものであるのではなく、同質と思われる情報の集合のそれぞれに及ぼす効果を検討したものである。し

たがって、個々の情報に自己意識特性がいかなる効果を及ぼすかを検討すれば、具体的にいかなる情報に対する興味に私的自己意識特性および公的自己意識特性が影響を及ぼしているのかが明らかになり、さらには、これまで認められなかった社会的不安が情報に対する興味に及ぼす効果が認められる可能性もある。そこで、本研究においては、最後に、私的自己意識特性、公的自己意識特性、および社会的不安が、情報に対する興味を測定する項目に及ぼす効果を検討してみる。

まず、私的自己意識特性が個々の情報に対する興味の強さに及ぼす効果をみるために、被験者を私的自己意識特性の合計点の平均値を基準に、高私的自己意識特性群と低私的自己意識特性群に分け、両群の興味測定項目の各項目の平均評定値を算出した。結果は、Table 4 に示すとおりである。両群間において t 検定を行ったところ、“免許、資格の取り方” ($t=2.14$, $df=158$, $p<.05$), “スポーツがうまくなる方法” ($t=2.47$, $df=158$, $p<.05$), “歌がうまくなる方法” ($t=2.48$, $df=158$, $p<.05$), “自分の体力および健康状態について” ($t=2.10$, $df=158$, $p<.05$), “自分の性格について” ($t=2.30$, $df=158$, $p<.05$), “自分をコントロールする方法” ($t=3.68$, $df=158$, $p<.001$), “健康管理の方法” ($t=2.33$, $df=158$, $p<.05$), “精神的に大人になる方法” ($t=2.03$, $df=158$, $p<.05$), “自分の能力、適性について” ($t=3.22$, $df=158$, $p<.01$), “理想的な自分になれる方法” ($t=2.61$, $df=158$, $p<.01$), “体力をつける方法” ($t=2.02$, $df=158$, $p<.05$), “他者の過去あるいは秘密” ($t=2.94$, $df=158$, $p<.01$), “他者が自分をどう思っているか” ($t=2.73$, $df=158$, $p<.01$), “人間の身体のことについて” ($t=2.21$, $df=158$, $p<.05$) という項目において有意な差が認められ、“観光地、プレイスポット、タウン情報について” ($t=1.75$, $df=158$, $p<.10$), “ギャンブルの勝ち方” ($t=1.68$, $df=158$, $p<.10$), “話題になっている事件の真相” ($t=1.91$, $df=158$, $p<.10$), “レポートの書き方” ($t=1.74$, $df=158$, $p<.10$), “自分の感情、考えについて” ($t=1.94$, $df=158$, $p<.10$), “他者の近況について” ($t=1.66$, $df=158$, $p<.10$), “他者の今後の行動” ($t=1.71$, $df=158$, $p<.10$), “他者の将来について” ($t=1.96$, $df=158$, $p<.10$) という項目において有意な傾向が認められた。

次に、公的自己意識特性が個々の情報に対する興味の強さに及ぼす効果をみるために、被験者を公的自己意識特性の合計点の平均値を基準に、高公的自己意識特性群と低公的自己意識特性群に分け、両群の興味測定項目の各項目の平均評定値を算出した。結果は、Table 5 に示すとおりである。両群間において t 検定を行ったところ、“観光地、プレイスポット、タウン情報について” ($t=2.03$, $df=158$, $p<.05$), “先生の成績のつけ方について” ($t=2.03$, $df=158$, $p<.05$), “大学、サークル等所属する集団のことについて” ($t=2.16$, $df=158$, $p<.05$), “歌がうまくなる方法” ($t=3.11$, $df=158$, $p<.01$), “話題になっている事件の真相” ($t=2.32$, $df=158$, $p<.05$), “条件のいいバイト先” ($t=2.18$, $df=158$, $p<.05$), “自分の感情、考えについて” ($t=2.15$, $df=158$, $p<.05$), “自分の体力および健康状態について” ($t=2.67$, $df=158$, $p<.01$), “自分の性格について” ($t=2.59$, $df=158$, $p<.01$), “健康管理の方法” ($t=2.76$, $df=158$, $p<.01$), “精神的に大人になる方法” ($t=2.37$, $df=158$, $p<.05$), “自分の能力、適性について” ($t=2.82$, $df=158$, $p<.01$), “理想的な自分になれる方法” ($t=2.49$, $df=158$, $p<.05$), “他者の気持ち、あるいは考え” ($t=2.02$, $df=158$, $p<.05$),

Table 4 高私的自己意識特性条件 (n=75) と低私的自己意識特性条件 (n=85) の各項目の平均評定値および標準偏差

項目	高条件	低条件
	Mean (SD)	Mean (SD)
1 ある商品の発売日	3.64 (1.63)	3.74 (1.51)
2 あるものの値段について	4.54 (1.35)	4.25 (1.22)
3 電車、バスの時刻	4.24 (1.55)	4.27 (1.56)
4 地理、道路について	4.00 (1.45)	4.04 (1.47)
5 観光地、プレイスポット、タウン情報について	4.60 (1.26)	4.22 (1.42)
6 今日のテレビ番組について	4.01 (1.53)	4.30 (1.31)
7 体講に関連することについて	5.34 (1.02)	5.48 (0.97)
8 ギャンブルの勝ちかた	3.96 (2.05)	4.45 (1.69)
9 先生の成績のつけ方について	5.04 (1.35)	4.98 (1.30)
10 免許、資格の取り方	5.10 (0.87)	4.76 (1.13)
11 これからの天気について	4.01 (1.56)	3.74 (1.57)
12 芸術、芸能、スポーツのことについて	4.44 (1.48)	4.08 (1.32)
13 麻雀、将棋などゲームのやり方について	3.06 (2.00)	2.92 (1.80)
14 ギャンブルの当たり券の番号	3.82 (2.20)	3.78 (2.12)
15 車、バイクを上手に運転する方法	4.25 (1.68)	4.17 (1.76)
16 スポーツがうまくなる方法	4.86 (1.34)	4.27 (1.65)
17 大学、サークル等所属する集団のことについて	3.70 (1.71)	3.35 (1.54)
18 歌がうまくなる方法	4.48 (1.49)	3.87 (1.59)
19 話題になっている事件の真相	4.76 (1.30)	4.32 (1.51)
20 試験あるいは宿題の答え	5.40 (1.26)	5.38 (1.16)
21 お金を貯める方法	4.97 (1.31)	4.95 (1.43)
22 条件のいいバイト先	5.53 (1.14)	5.29 (1.30)
23 レポートの書き方	5.26 (0.92)	4.96 (1.25)
24 自分の運動能力について	3.86 (1.55)	3.52 (1.56)
25 自分の感情、考え方について	4.72 (1.42)	4.24 (1.62)
26 自分の体力および健康状態について	4.46 (1.21)	4.03 (1.35)
27 自分の性格について	4.81 (1.36)	4.30 (1.41)
28 自分をコントロールする方法	4.85 (1.18)	4.03 (1.61)
29 健康管理の方法	4.38 (1.11)	3.91 (1.42)
30 精神的に大人になる方法	4.57 (1.57)	4.07 (1.54)
31 自分の能力、適正について	5.17 (1.16)	4.49 (1.49)
32 理想的な自分になれる方法	5.08 (1.30)	4.49 (1.50)
33 体力をつける方法	4.14 (1.47)	3.68 (1.41)
34 社会情勢について	4.16 (1.22)	3.87 (1.42)
35 経済に関連することについて	3.64 (1.40)	3.41 (1.44)
36 今後の経済について	3.74 (1.35)	3.56 (1.39)
37 政治に関連することについて	3.18 (1.21)	3.37 (1.52)
38 歴史・文化について	3.54 (1.50)	3.40 (1.64)
39 日本の将来について	3.78 (1.50)	3.77 (1.57)
40 科学的知識および科学的技術について	3.00 (1.70)	2.91 (1.67)
41 宇宙に関することについて	3.53 (1.78)	3.63 (1.73)
42 世界の未来について	3.89 (1.51)	3.78 (1.69)
43 他者の近況について	3.20 (1.37)	2.82 (1.46)
44 他者の今後の行動	3.08 (1.47)	2.68 (1.45)
45 他者の気持ちあるいは考え	4.29 (1.47)	3.94 (1.54)
46 他者の過去あるいは秘密	3.42 (1.63)	2.67 (1.60)
47 他者の将来について	2.96 (1.47)	2.50 (1.44)
48 他者が自分をどう思っているか	4.92 (1.23)	4.32 (1.46)
49 他者の年齢	2.21 (1.48)	2.02 (1.59)
50 他者の収入	2.29 (1.61)	2.02 (1.52)
51 幸せになる方法	4.85 (1.48)	4.71 (1.43)
52 頭が良くなる方法	4.94 (1.41)	4.83 (1.36)
53 今度取得できる単位数	5.09 (1.16)	4.90 (1.24)
54 4年間で卒業できるのか	4.86 (1.45)	4.88 (1.52)
55 結婚相手について	4.18 (1.85)	4.21 (1.74)
56 出世する方法	4.54 (1.58)	4.52 (1.50)
57 自分の将来について	4.85 (1.73)	4.64 (1.71)
58 単位および良い成績の取り方	5.30 (1.03)	5.18 (1.22)
59 自分の寿命について	2.85 (2.03)	2.82 (2.00)
60 超能力に関連することについて	2.73 (1.97)	2.43 (1.91)
61 死後の世界および霊の存在について	2.57 (2.08)	2.29 (1.99)
62 宇宙人、UFOの存在	2.92 (2.18)	2.41 (2.03)
63 1999年地球は滅びるか	2.77 (2.22)	2.58 (2.18)
64 人間の進化について	2.81 (1.84)	2.60 (1.59)
65 人間の身体のことについて	3.30 (1.43)	2.82 (1.32)

Table 5 高公的自己意識特性条件 (n=95) と低公的自己意識特性条件 (n=65) の各項目の平均評定値および標準偏差

項目	高条件		低条件	
	Mean	(SD)	Mean	(SD)
1 ある商品の発売日	3.77	(1.59)	3.56	(1.53)
2 あるものの値段について	4.55	(1.33)	4.15	(1.20)
3 電車、バスの時刻	4.36	(1.58)	4.09	(1.51)
4 地理、道路について	3.93	(1.43)	4.15	(1.49)
5 観光地、プレイスポット、タウン情報について	4.58	(1.16)	4.12	(1.57)
6 今日のテレビ番組について	4.27	(1.46)	4.01	(1.37)
7 休講に関連することについて	5.52	(0.87)	5.26	(1.13)
8 ギャンブルの勝ちかた	4.24	(1.86)	4.20	(1.93)
9 先生の成績のつけ方について	5.20	(1.04)	4.73	(1.61)
10 免許、資格の取り方	4.97	(0.92)	4.84	(1.17)
11 これからの天気について	3.95	(1.50)	3.73	(1.66)
12 芸術、芸能、スポーツのことについて	4.38	(1.32)	4.04	(1.50)
13 麻雀、将棋などゲームのやり方について	2.93	(1.99)	3.07	(1.75)
14 ギャンブルの当たり券の番号	3.64	(2.20)	4.04	(2.07)
15 車、バイクを上手に運転する方法	4.24	(1.67)	4.16	(1.79)
16 スポーツがうまくなる方法	4.68	(1.33)	4.35	(1.80)
17 大学、サークル等所属する集団のことについて	3.74	(1.54)	3.18	(1.71)
18 歌がうまくなる方法	4.48	(1.32)	3.67	(1.77)
19 話題になっている事件の真相	4.75	(1.21)	4.20	(1.65)
20 試験あるいは宿題の答え	5.50	(0.99)	5.23	(1.45)
21 お金を貯める方法	5.00	(1.30)	4.90	(1.48)
22 条件のいいバイト先	5.58	(1.07)	5.13	(1.40)
23 レポートの書き方	5.16	(0.94)	5.01	(1.34)
24 自分の運動能力について	3.85	(1.54)	3.44	(1.57)
25 自分の感情、考えについて	4.69	(1.36)	4.13	(1.74)
26 自分の体力および健康状態について	4.47	(1.10)	3.89	(1.49)
27 自分の性格について	4.78	(1.22)	4.18	(1.58)
28 自分をコントロールする方法	4.60	(1.27)	4.15	(1.71)
29 健康管理の方法	4.36	(1.16)	3.80	(1.42)
30 精神的に大人になる方法	4.54	(1.45)	3.95	(1.69)
31 自分の能力、適正について	5.06	(1.22)	4.44	(1.53)
32 理想的な自分になれる方法	5.00	(1.32)	4.43	(1.54)
33 体力をつける方法	4.03	(1.41)	3.70	(1.51)
34 社会情勢について	4.10	(1.24)	3.86	(1.46)
35 経済に関連することについて	3.52	(1.39)	3.50	(1.48)
36 今後の経済について	3.67	(1.26)	3.61	(1.52)
37 政治に関連することについて	3.25	(1.22)	3.33	(1.60)
38 歴史・文化について	3.32	(1.47)	3.67	(1.70)
39 日本の将来について	3.76	(1.43)	3.80	(1.69)
40 科学的知識および科学的技術について	2.90	(1.65)	3.03	(1.75)
41 宇宙に関することについて	3.50	(1.71)	3.70	(1.80)
42 世界の未来について	3.89	(1.49)	3.75	(1.76)
43 他者の近況について	3.11	(1.41)	2.83	(1.45)
44 他者の今後の行動	2.95	(1.50)	2.73	(1.42)
45 他者の気持ちあるいは考え	4.30	(1.43)	3.81	(1.60)
46 他者の過去あるいは秘密	3.22	(1.67)	2.73	(1.61)
47 他者の将来について	2.89	(1.48)	2.46	(1.42)
48 他者が自分をどう思っているか	5.01	(1.15)	4.01	(1.50)
49 他者の年齢	2.23	(1.54)	1.93	(1.54)
50 他者の収入	2.20	(1.63)	2.07	(1.47)
51 幸せになる方法	4.84	(1.51)	4.69	(1.36)
52 頭が良くなる方法	4.91	(1.44)	4.84	(1.29)
53 今度取得できる単位数	5.12	(1.12)	4.80	(1.30)
54 4年間で卒業できるのか	5.06	(1.23)	4.60	(1.76)
55 結婚相手について	4.25	(1.79)	4.12	(1.79)
56 出世する方法	4.62	(1.63)	4.41	(1.40)
57 自分の将来について	4.91	(1.66)	4.49	(1.77)
58 単位および良い成績の取り方	5.31	(1.04)	5.13	(1.26)
59 自分の寿命について	2.93	(2.09)	2.69	(1.89)
60 超能力に関連することについて	2.69	(1.96)	2.40	(1.91)
61 死後の世界および霊の存在について	2.41	(2.00)	2.44	(2.09)
62 宇宙人、UFOの存在	2.74	(2.07)	2.50	(2.18)
63 1999年地球は滅びるか	2.85	(2.16)	2.41	(2.23)
64 人間の進化について	2.58	(1.66)	2.86	(1.78)
65 人間の身体のことについて	3.02	(1.30)	3.09	(1.51)

Table 6 高社会的不安条件 (n=90) と低社会的不安条件 (n=70) の各項目の平均評定値および標準偏差

項目	高条件		低条件	
	Mean	(SD)	Mean	(SD)
1 ある商品の発売日	3.73	(1.51)	3.64	(1.64)
2 あるものの値段について	4.41	(1.28)	4.37	(1.32)
3 電車、バスの時刻	4.16	(1.58)	4.37	(1.53)
4 地理、道路について	3.95	(1.38)	4.11	(1.55)
5 観光地、プレイスポット、タウン情報について	4.31	(1.32)	4.51	(1.40)
6 今日のテレビ番組について	4.20	(1.41)	4.12	(1.45)
7 休講に関連することについて	5.33	(1.10)	5.52	(0.82)
8 キャンプルの勝ちかた	4.43	(1.79)	3.95	(1.97)
9 先生の成績のつけ方について	4.97	(1.30)	5.05	(1.35)
10 免許、資格の取り方	4.96	(1.09)	4.87	(0.94)
11 これからの天気について	3.84	(1.56)	3.90	(1.58)
12 芸術、芸能、スポーツのことについて	4.34	(1.31)	4.12	(1.51)
13 麻雀、将棋などゲームのやり方について	3.23	(1.88)	2.68	(1.88)
14 キャンプルの当たり券の番号	4.01	(1.99)	3.54	(2.33)
15 車、バイクを上手に運転する方法	4.14	(1.76)	4.30	(1.67)
16 スポーツがうまくなる方法	4.63	(1.46)	4.44	(1.64)
17 大学、サークル等所属する集団のことについて	3.65	(1.63)	3.34	(1.62)
18 歌がうまくなる方法	4.42	(1.32)	3.81	(1.79)
19 話題になっている事件の真相	4.55	(1.49)	4.50	(1.35)
20 試験あるいは宿題の答え	5.37	(1.26)	5.41	(1.13)
21 お金を貯める方法	4.91	(1.45)	5.02	(1.27)
22 条件のいいバイト先	5.34	(1.26)	5.48	(1.20)
23 レポートの書き方	5.22	(1.03)	4.95	(1.20)
24 自分の運動能力について	3.58	(1.61)	3.81	(1.49)
25 自分の感情、考えについて	4.46	(1.54)	4.47	(1.56)
26 自分の体力および健康状態について	4.18	(1.35)	4.30	(1.24)
27 自分の性格について	4.55	(1.43)	4.52	(1.38)
28 自分をコントロールする方法	4.58	(1.38)	4.20	(1.57)
29 健康管理の方法	4.17	(1.28)	4.08	(1.33)
30 精神的に大人になる方法	4.46	(1.47)	4.10	(1.68)
31 自分の能力、適正について	4.93	(1.33)	4.65	(1.44)
32 理想的な自分になれる方法	4.82	(1.39)	4.70	(1.50)
33 体力をつける方法	3.93	(1.39)	3.85	(1.54)
34 社会情勢について	4.30	(1.28)	3.97	(1.41)
35 経済に関連することについて	3.48	(1.35)	3.55	(1.51)
36 今後の経済について	3.60	(1.36)	3.71	(1.39)
37 政治に関連することについて	3.26	(1.33)	3.31	(1.45)
38 歴史・文化について	3.42	(1.56)	3.52	(1.60)
39 日本の将来について	3.75	(1.56)	3.81	(1.51)
40 科学的知識および科学的技術について	3.11	(1.71)	2.75	(1.63)
41 宇宙に関することについて	3.61	(1.71)	3.55	(1.81)
42 世界の未来について	3.75	(1.65)	3.94	(1.54)
43 他者の近況について	2.95	(1.41)	3.05	(1.46)
44 他者の今後の行動	2.84	(1.42)	2.90	(1.55)
45 他者の気持ちあるいは考え	4.10	(1.49)	4.11	(1.55)
46 他者の過去あるいは秘密	3.26	(1.64)	2.71	(1.63)
47 他者の将来について	2.92	(1.51)	2.45	(1.38)
48 他者が自分をどう思っているか	4.74	(1.35)	4.42	(1.43)
49 他者の年齢	2.27	(1.46)	1.90	(1.61)
50 他者の収入	2.33	(1.57)	1.91	(1.53)
51 幸せになる方法	4.80	(1.50)	4.75	(1.40)
52 頭が良くなる方法	5.00	(1.36)	4.74	(1.40)
53 今度取得できる単位数	4.97	(1.19)	5.01	(1.22)
54 4年間で卒業できるのか	4.82	(1.47)	4.94	(1.51)
55 結婚相手について	4.04	(1.85)	4.40	(1.69)
56 出世する方法	4.52	(1.56)	4.55	(1.51)
57 自分の将来について	4.71	(1.85)	4.78	(1.54)
58 単位および良い成績の取り方	5.21	(1.20)	5.28	(1.05)
59 自分の寿命について	2.66	(1.96)	3.05	(2.07)
60 超能力に関連することについて	2.77	(1.98)	2.31	(1.87)
61 死後の世界および霊の存在について	2.57	(2.09)	2.22	(1.95)
62 宇宙人、UFOの存在	2.78	(2.09)	2.47	(2.15)
63 1999年地球は滅びるか	2.62	(2.23)	2.74	(2.16)
64 人間の進化について	2.64	(1.75)	2.77	(1.67)
65 人間の身体のことについて	3.08	(1.43)	3.00	(1.34)

“他者が自分をどう思っているか” ($t=4.50, df=158, p<.001$) には有意な差が認められ, “自分をコントロールする方法” ($t=1.78, df=158, p<.10$), “他者の過去あるいは秘密” ($t=1.81, df=158, p<.10$), “他者の将来について” ($t=1.84, df=158, p<.10$), “今度取得できる単位数” ($t=1.69, df=158, p<.10$), “4年間で卒業できるのか” ($t=1.82, df=158, p<.10$) という項目において有意な傾向が認められた。

そして, 社会的不安が個々の情報に対する興味の強さに及ぼす効果をみるために, 被験者を社会的不安の合計点の平均値を基準に, 高社会的不安群と低社会的不安群に分け, 両群の興味測定項目の各項目の平均評定値を算出した。結果は, Table 6 に示すとおりである。両群間で t 検定を行ったところ, いずれの項目にも有意な差は認められなかったものの, “麻雀, 将棋などゲームのやり方について” ($t=1.82, df=158, p<.10$), “自分をコントロールする方法” ($t=1.65, df=158, p<.10$), “他者の過去あるいは秘密” ($t=2.11, df=158, p<.10$), “他者の将来について” ($t=2.00, df=158, p<.10$), “他者の収入” ($t=1.68, df=158, p<.10$) という項目には有意な傾向が認められた。

これらの結果より, 新たに次の2点を指摘することができる。ひとつは, まず, 私的自己意識特性と公的自己意識特性の効果が認められる項目を照合してみると, ほぼ同一の項目にその効果が顕れているという点である。このことは, 私的自己意識特性と公的自己意識特性は, 情報に対する興味にほぼ同一効果を及ぼすことを示している。もうひとつは, 弱いながらも社会的不安が情報に及ぼす効果が認められたという点である。

以上, 本研究においては, 私的自己意識特性, 公的自己意識特性, および社会的不安が情報に対する興味に及ぼす効果を分析してきた。その結果, 私的自己意識および公的自己意識が特定の情報に対する興味の強さに影響を及ぼすことが認められ, 私的自己意識が高い個人および公的自己意識が高い個人は, ともに, 現在の自己に関する情報および他者に関する情報に対する興味が強いことがみいだされた。この点については, 次のような解釈が可能である。人は自己のある側面に注意を向けると, その側面を適切な基準に照らし合わせ評価を行おうとするが, しかし, 基準に達しているかどうかを判断するためには, 注目した側面に関連した情報がさらに必要とされる場合が多い。したがって, 自己に注意が向きやすい, 私的自己意識が高い個人および公的自己意識が高い個人は, 自己に関する情報, および社会的比較を行うために他者に関連した情報をより多く求めるという解釈である。

次に, 私的自己意識と公的自己意識が情報に対する興味に及ぼすそれぞれの効果については, 当初予想したような顕著な差は認められなかった。これは, 分析の仕方による原因があると考えられる。なぜならば, 本研究においては, 私的自己意識特性, 公的自己意識特性, および社会的不安を, それぞれ単独に扱い, それぞれと情報に対する興味との相関関係, またそれぞれの高群と低群を比較するという形で分析が行われているからである。しかし, それぞれが自己に向かう注意の方向を規定する要因である以上, 本来, 分析は, 私的自己意識特性, 公的自己意識特性, および社会的不安を同時に操作した形で行う必要がある。ところが, 本研究におい

ては、私的自己意識と公的自己意識との間に高い相関が認められたために ($r=.494, n=160, p<.001$), そのような分析を行うことができなかった。したがって、高私的自己意識群と割り当てられた被験者と高公的自己意識群に割り当てられた被験者が重複し、私的自己意識特性および公的自己意識特性それぞれの独立した効果をとらえきれなかった可能性が強い。

しかし、従来の研究において、私的自己意識と公的自己意識との間にこのような強い相関が認められたことはこれまでなかった (e.g. 岩淵・田淵・中里・田中, 1981; 押見・渡辺・石川, 1986)。そこで、なぜ、私的自己意識特性と公的自己意識特性との間に強い相関が認められたのかを考えてみれば、それは自己意識尺度の評定の前に情報に対する興味の強さの評定を行っていることに起因していると思なさざるをえない。すると、被験者は、情報に対する興味を評定するために多くの情報に接したことにより、私的自己意識および公的自己意識がともに高まったという解釈が成立する。このことは、自己意識特性の安定性に関する吟味の必要性を示唆するとともに、私的自己意識特性および公的自己意識特性が情報に対する興味に及ぼす効果を検討するためには、被験者の調査時の自己意識の状態をも考慮に入れなければならないことを示している。これと同じことが、社会的不安に関してもいえる。本研究においては、社会的不安が情報に対する興味に及ぼす効果に関してはほとんどみいだすことができず、社会的不安の高い個人はより多くの情報を求めるという仮説を検証することはできなかったが、不安に関しても状態不安と特性不安があるとの指摘がなされている (e.g. 清水・今栄, 1981)。したがって、その仮説の真偽を明らかにするには、不安の特性的側面と状态的側面を同時に考慮に入れた検討が必要となろう。

最後に、もうひとつ本研究の問題および今後の課題を指摘すると、本研究においては問題の認識およびその解決過程を媒介として、自己意識特性が情報に対する興味に及ぼす効果を説明してきたにも関わらず、被験者が実際、いかなる問題を認識していたかといった点には検討が加えられていない。したがって、被験者がいかなる目標を有し、被験者がいかなる問題を抱え、そしてそれをいかに解決しようとしているかを測定するとともに、それらと情報を求める行為との関連性を検討する調査あるいは実験を立案することが今後の重要な課題としてあげられる。

要 約

本研究は、Fenigstein, Scheier, & Buss (1975) の自己意識尺度の邦訳版である、岩淵・田淵・中里・田中 (1981) の日本語版自己意識尺度を用いて自己意識特性を測定するとともに、情報に対する興味を同時に測定し、私的自己意識特性、公的自己意識特性および社会的不安が及ぼす効果を検討することを目的とした。その結果、私的自己意識および公的自己意識が特定の情報に対する興味の強さに影響を及ぼすことが認められた。しかし、私的自己意識および公的自己意識のそれぞれの効果に質的な差は認められなかった。また、社会的不安に関してはその効果はほとんど認められなかった。

引用文献

- Agatstein, F. C. & Buchanan, D. B. 1984 Public and private self-consciousness and the recall of self-relevant information. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 10, 314-325.
- Buss, A. H. 1980 *Self-consciousness and social anxiety*. W. H. Freeman and Company.
- Carver, C. S. 1979 A cybernetic model of self-attention processes. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 1251-1281.
- Carver, C. S. & Scheier, M. F. 1981 *Attention and self-regulation : A control-theory approach to human behavior*. Springer Verlag.
- Duval, S. & Wicklund, R. A. 1972 *A theory of objective self-awareness*. Academic Press.
- Fenigstein, A., Scheier, M. F. & Buss A. H. 1975 Public and private self-consciousness : Assessment and theory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 43, 522-527.
- 岩淵千明・田淵創・中里浩明・田中國夫 1981 自己意識尺度についての研究 日本社会心理学会第22回大会発表論文集 37-38.
- 工藤恵理子 1990 特性的自己意識と活性化される情報処理過程の関係について 社会心理学研究, 6, 14-22.
- 西迫成一郎・森上幸夫・桑原尚史 1996 情報興味空間の構造の分析 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」, 第3号, 43-51.
- 押見輝男・渡辺浪二・石川直弘 1986 自己意識尺度の検討 立教大学心理学科研究年報, 28, 1-15.
- 清水秀美・今栄国晴 1981 STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORYの日本語版(大学生用)の作成 教育心理学研究, 29, 62-67.
- Wicklund, R. A. 1975 Objective self-awareness. *Journal of Personality and Social Psychology*, 8, 233-275.